

東京国税局長賞

対等に使い、平等に暮らす

船橋市立船橋中学校

第一学年

植木 莉沙

「平等」と「対等」。一見同じような言葉に
思えるこの四文字が、税金をより深く知るこ
とにつながっていく。

私は生まれつき牛乳アレルギーを持ってい
る。そのせいで定期的に診察が必要だから、
持病がない人に比べて医療費が高くなる。そ
んな私だからこそ、税金には本当に助けられ
ていると実感する機会が多い。私はこの身近
な税金について、様々な観点から考えてみた。

まず税金について考えるにあたって、「平等」
と「対等」の意味の違いを理解するべきだと
思った。調べてみると、「平等」は差別がなく、
みな等しいこと。「対等」は互いに優劣がなく、
同じ程度であることだった。わかりやすく例
えると、十枚のクッキーを五歳離れた兄弟で
分けるとき、平等に分けると兄も弟も五枚ず
つ。対等に分けると兄が七枚、弟が三枚にな
る。これは、兄のほうが体格が大きく、兄弟

で同じ満腹度になる量が違うからだ。

私はこの知識を経て、税金が対等に使われ
ている理由が分かった。全員に平等に税金が
使われたら、持病がある人のほうが支出が大
きくなり、生活が苦しくなってしまう。この
場合、持病がある人となない人の立場が対等で
あるとは言えない。だから、税金は対等に使
われているんだと思う。

税金は平等に納めないといけないから、一
見これは持病がない人が損をしているように
見えるかもしれない。でも私は、平等である
ことよりも、全員が対等な立場で暮らすこと
ができるほうが楽しいと思う。病気やアレ
ルギーだって持ちたくて持っているわけではな
いし、持病がある人だって持病がない人と同
じように、健康に生きる権利がある。健康に
生きるために、持病がない人よりもお金が多
くかかるところを、税金が補ってくれている。

まずはこのことを理解することが大切だと思
う。税金は日本で暮らしている人全員の生活
を支えていて、誰もが絶対に少しは助けても
らっていると思うから、持病がある人に限ら
ず、全員が税金に感謝の気持ちを持つことも
大切だと思う。

税金は全員の立場を対等にし、暮らしを豊
かにする。税金で救われる命がたくさんある。
そんな税金を私達が納めているのは紛れもな
い事実だから、税金は意味のないもの、いら
ないものだと思わないでほしい。今は直接自
分に利がなくても、将来自分がした行いが返
って来るかもしれない。目の前のことだけで
なく、少し角度を変えて考えることで、税金
に対しての意識が変わり、社会はもっと明る
く豊かになると思う。